



本質突いた声、聴き逃さない



舞鶴市保険医療課長

福本一夫

氏

国保業務は、いろんな内容の文書・通知を一斉に被保険者に出すことが多い。しかもセンシティブな内容を含んでいるケースもあり、誤って送付することなどないよう取り扱いには細心の注意が求められるという。「あれもやってくれ、これもやってくれ」と言う中で、職員にはそれに応えてもらっており感謝しているんです。課長になって4年目だが、国保担当は窓口や保険料担当の経験があり十数年になる。業務の難しさや苦勞を知っているだけに課員への心配りは忘れない。

「市役所の窓口や電話でさまざまな相談やお叱りの声が寄せられます。お客様の声はよく聞くようにしているんですが、忙しい時などはついその心掛けを忘れてしまうこともあるわけです。しかし、お叱りや苦情の中には、本質を突いた声があるんです。その声を『聴き』逃さないよう努めていきたいと思っています。終始、控えめな話し方だったが、この時ばかりは言葉に熱がこもった。

平成30年度から新しい国保制度がスタートする。「自治体にとって国民皆保険を将来にわたって守り続ける大改革です。都道府県も被保険者となり

財政運営の責任主体になるわけですが、その内容を被保険者の市民の皆さんにどう伝え、理解していただくか悩ましい問題です。できるだけ保険料水準が現状と大きく変わらないよう円滑に移行していきたい」



食生活の大切さを痛感

長身でスマートである。「いえいえ、昨年、職場の健診でメタボと言われ特定保健指導の対象になったんです」と打ち明けてくれた。「間食や寝る前にご飯を食べることが多かったです。立场上、これではだめだと思いい間食などをやめたところ、

70^キだった体重がわずか2カ月で65^キまでになりました」。食生活の大切さを痛感したという。

保健師さんと手紙のやりとりで特定保健指導を受けている。「どうですか、やっておられますか」その手紙をいただくと思えるわけにもいきませんし。たばこをやめられないのが目下の悩みのタネとか。「保健師さんから次は禁煙ですね、と言われるんですが…」

冬の暖房確保へ「まき割り」

3〜4年前から、冬場のまきストーブに使用するための「まき割り」を本格的に始めた。休日を利用しては、チェーンソーで木を伐採し、山から木を持ち帰り、斧で割る。自宅の冬場の暖房はこれで賄うというからすごい。「体力もついたのですが、クマが出るのが怖いんですね」。それはだれだって怖いでしょう！ くれぐれもご用心を。

最後にモットーを聞いた。「そんなだいそれたことを、私に聞くんですか。」「うーん」と考え込み、しばらく黙った後、「結果はどうであれ、いろんな努力は無駄にはならない、のではないのでしょうか。ありがとうございます」。